

# 『雪の精の戯れ』 寸評

- ・ キビキビとした雪の精が舞う情景
- ・ 低音を省きピアノのアルペジオが耳に鮮やか
- ・ m.4 の休符につづきピアノの間奏がFl.の出番への期待を高める
- ・ m.9-12 のはずまないリズムの対比も半終止して先を期待させる
- ・ 楽器の選択と音域の個性がみごとに作品に活かされている

## 完成度をさらに上げるために

- ・ ピアノのペダルが無雑作に1小節ごとに振られているようだ
- ・ ベースと和音が代わるごとにペダルはふみかえるのが基本
- ・ いっそのことペダリングは奏者に一任してつけないのもアリ
- ・ m.12 ピアノ右手は複数声部でないから二分休符ひとつだけでよい  
符尾は下向きに
- ・ m.14 Fl.のスラーは音符側にしよう
- ・ m.5 b.3 Fl.の休符は二分休符にまとめよう

m.=measure 小節番号のことです。  
b.=beat 拍のことです。

すばらしい1年のしめくりです。

持麿 勉